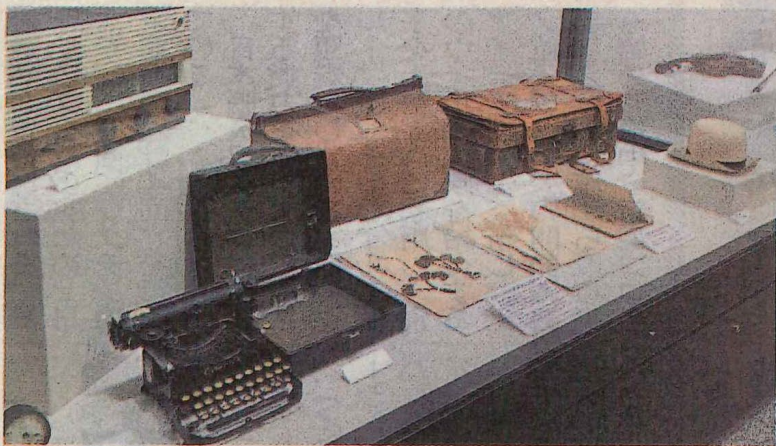


植物学者・郡場氏知って



郡場氏について貴重な資料で紹介している企画展

貴重な資料で功績紹介



郡場氏が使用していたタイプライターなども並ぶ。今回の企画展は同大をはじめ、郡場氏に関する多くの

弘大資料館で農学部創設70周年企画展

弘前大学資料館で14日から、同大農学生命科学部の前身である農学部の創設70周年記念として「津軽が生んだ植物学者 郡場寛（ひろば）弘前とシンガポールをつなぐ郷土の偉人」が始まった。同大第2代学長であり、第2次世界大戦中の日本統治下のシンガポールで、

現在では世界文化遺産に登録されるまでになったシンガポール植物園（当時の昭南植物園）を戦禍から守るなど多くの功績を残した郡場氏について、多くの貴重な資料を通して知ることができる機会となっている。12月19日まで。（西尾瑛）

今回の企画展は同大をはじめ、郡場氏に関する多くの

の収蔵品を持つ県立郷土館、シンガポールとの交流を進める弘前市が主催。郡場氏は青森市生まれの植物学者で八甲田の自然豊かな酸ヶ湯温泉郷で育った。東京帝国大学理科大学を卒業後は、京都帝国大学授や同大理学部長などを歴任。戦時下では60歳の時に陸軍司政長官としてシンガポールへ派遣された。

果や論文などをこれら研究者に託して帰国。約10年後、弘前大学長となった郡場氏は英国人研究者たちが探し当て、時を経て郡場氏の研究を論文として発表するなど大きな信頼を受けていた。弘前大学長となった後は農学部の創設に尽力したほか、現在の弘前公園の管理について助言するなど、弘前市や弘前大学に大きく貢献した。

会場ではシンガポール植物園の樹種を詳細にメモしたフィールドノートや英国人研究者との交流などを紹介しているほか、使用していたタイプライターやかばん、趣味人であった郡場氏愛用の楽器などが展示されている。弘前大農学生命科学部の中村剛之教授は「シンガポール植物園や弘前公園は今も名所として残るなど、さまざまなところで直接・間接に影響を残した人。ぜひ足を運んでいただければ」とした。開館時間は午前10時～午後4時、入館は午後3時半まで。日曜祝日は休館。

※この記事は陸奥新報社の提供です。

この画像は、当該ページに限り陸奥新報の記事利用を許諾したものです。

転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。

[問い合わせ先] 弘前大学資料館

jm3432@hirosaki-u.ac.jp